

## VI 資料報告

### 難波田城公園の蓮

難波田城資料館 島村敏昭・早坂広人

難波田城公園の城跡ゾーンと古民家ゾーンに挟まれて、蓮池と呼ばれる一角がある。

平成 12 年の開園当初、蓮を植えたが、うまく根付かず、花開くこともなく絶えた。

平成 21 年の春、西川弘男氏（市内水子在住）の斡旋により行田市「古代蓮の里」から、行田蓮の株（蓮根）を分けていただけることとなった。

ザリガニ釣りが楽しめる池となっていたため、網で囲いながらの育成を試みたが、1 年目は失敗に終わった。その冬、池を乾かし土を攪拌してザリガニの死滅を図った。プランターで育てた予備の蓮で再

挑戦した。囲いの中に花開き、外まで根が広がっていった。3 年目は囲いも不要となり、池全面に広がった。4 年目の今年、水面が見えないほどに茂り、朝早くカメラ機材を持ち込む方々も多くなった。

実は難波田城跡の主要部の小字は“蓮田”という。この地名が文字通り蓮に由来するならば、日本在来の蓮が咲き茂る光景は、かつて難波田一族が見たものと同様かもしれない。蓮の実は土中で数百年の命を保つことがある（中国で、出芽した実を年代測定した例がある）。もし、難波田城の堀跡から蓮の実が出土して芽吹いたら、と夢想するこのごろである。



平成 24(2012)年 7 月 29 日早朝の蓮池（背景奥の茅屋根は旧大澤家住宅）